● 第1章　平成28年熊本地震に対する日本赤十字社の対応 ●

熊本地震からの気付きと今後に向けて

日赤災害医療コーディネートチームの重要性と育成

今回、発災直後から超急性期の期間、熊本県災害対策本部に対し、日赤災害医療コーディネートーチームを常駐（交代要員も含め24時間体制）する形で派遣できていたとするなら、熊本県下の救護活動体制及び活動地域等に関して更なる助言が可能になったものと考えられる。

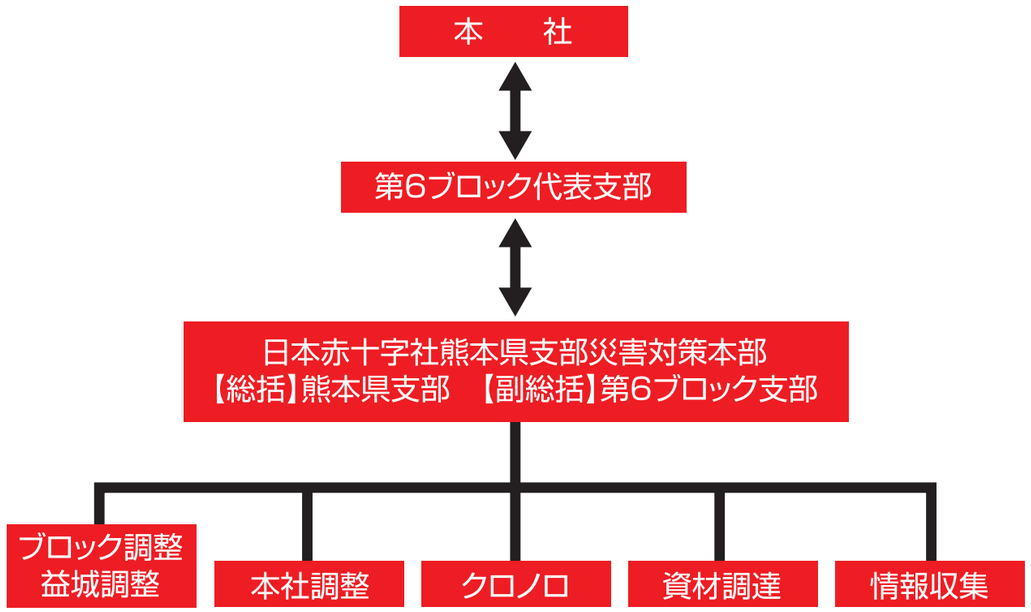
その意味では、全国における日赤災害医療コーディネートチームの質･量、両面での育成と派遣計画の構築が、喫緊の課題である。

CHAPTER 2
第２章

前震時の支部・
九州ブロック及び本社の
救護体制と
災害対策本部の立ち上げ

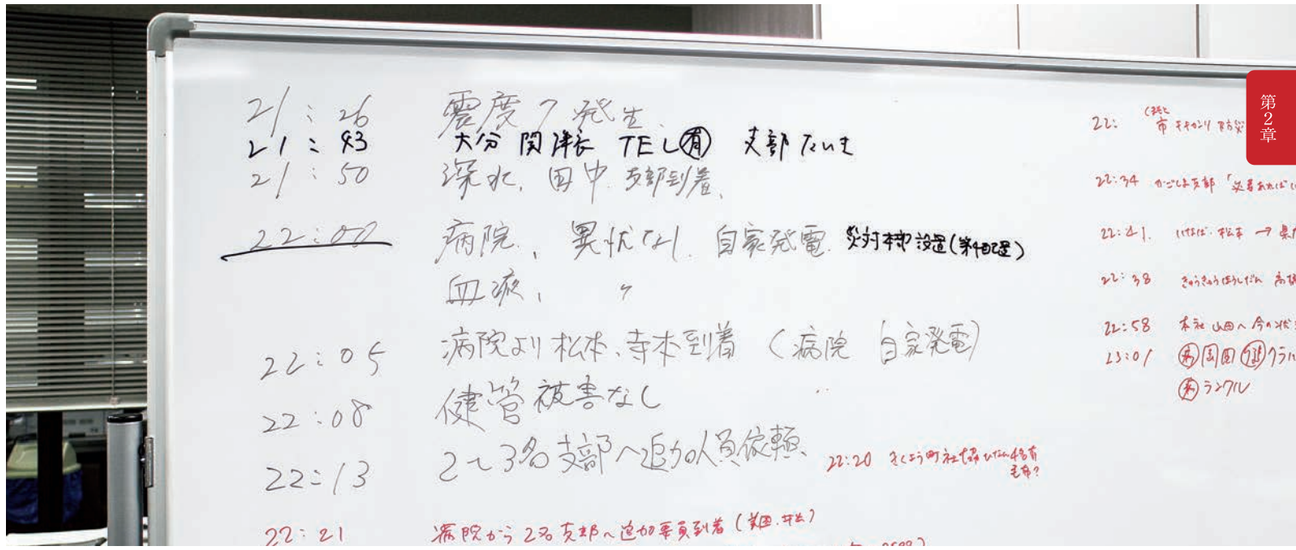
熊本地震発生後の日本赤十字社の組織

■前震発災直後の組織図



前震直後に支部対策本部へ参集し情報を収集する管下施設職員（4月14日23時59分撮影）

支部災害対策本部の設置



自主参集する支部職員と応援に駆け付けた施設職員

4月14日21:26の前震発災後、21:50には最初の支部職員が到着。その後、23時までに全職員15名中12名が参集。残り3名については地震の影響により出勤不可の連絡があり、結果的に80%の参集率となった。これは、「日本赤十字社熊本県支部災害救護計画」に定める「震度5強以上の地震においては全職員が配置要員となる」という基準を職員たちが十分に理解し自主参集したものである。また、本部要員が不足との判断から管下施設へ応援を要請、数名の職員が支部支援に駆け付けた。

本社、第6ブロック代表支部、施設間との連絡調整

いち早く駆け付けた事業推進課職員を中心に22:00「日本赤十字社熊本県支部災害対策本部」を設置。「日本赤十字社第6ブロック管内の災害救護活動の相互支援申し合わせ」に基づき第6ブロック代表支部である福岡県支部へ連絡、災害支援体制を整える調整に入った。また、22:33に熊本赤十字病院へ救護班2個班を待機要請、23:10には日赤熊本DMAT1個班を熊本県の要請により益城町へ派遣した。その後23:20、本社との調整により、すべての連絡については、第6ブロック代表支部である福岡県支部を介しての調整に移行。福岡県支部は、九州各県支部への救護班待機命令を発出した。

熊本県支部災害対策本部の設置

前震直後の支部災害対策本部（4月15日1時54分撮影）

第6ブロック救護班派遣要請

熊本県支部災害対策本部から支援要請を受けた第6ブロック代表支部の福岡県支部は、23:43に第6ブロック各県支部に対し、出動可能救護班数の調査を行った。現時点の派遣可能な救護班は、福岡1（福岡）、佐賀1（唐津）、長崎2（長崎原爆、長崎原爆諫早）、大分1（大分）であった。日付が変わった15日0:00に第6ブロック救護班に出動指示が出され、佐賀、大分、長崎の救護班が熊本へ向かった。また、これに先立ち福岡県支部からは22:57に福岡日赤1個班と本部支援要員2名が熊本へ出発。福岡県支部救護班は1:52、佐賀県支部救護班は4:35、長崎県支部救護班は4:55、南阿蘇経由で入った大分県支部救護班は6:10の到着となった。

熊本県支部と第6ブロック合同本部の設置

九州各県からの支援要員到着後は、的確かつ迅速な救護活動を行うため第6ブロックのチームと熊本県支部とで合同本部を設置した。合同本部の役割は、情報収集と指揮命令系統の確保である。医療救護班の出動や必要な救援物資など、どこにどのようなニーズがあるのか、まずは情報を集約し対応を図った。また、熊本県知事公室危機管理防災課、熊本市危機管理防災総室、熊本市消防局にも情報連絡員（リエゾン）を派遣し情報収集を行った。

なお、この合同本部は、初動の体制として設置したものだが、その後、本震の発生、連携する組織・人員の拡大等により刻々と体制を変更せざるを得ない状況となった。（対策本部と体制変遷の詳細についてはP74を参照）

本社の第2次救護体制の発令

■前震時の本社の対応

平成28年4月14日21:26の地震発生直後から、本社は熊本県支部、ブロック代表の福岡県支部等と連絡を取り、被害状況の確認や支援の要否の検討等を図った。その後、21:50に第2次救護体制を発令し、参集した救護・福祉部、寮・社宅入居職員を中心に、情報収集や被災地支部、各ブロック代表支部等との連絡調整、本社内関係各部等と状況共有を行い、先遣要員2名及び広報要員1名を翌日から派遣することを決定した。

また、第6ブロック代表の福岡県支部と、医療救護班の支援等について確認・調整し、第6ブロック各県支部から救護班を派遣することとした。

23:35には、本社内の災害対応関係部署による会議を開催し、情報共有、方針の確認等を実施。夜間も救護課を中心に当直体制をとり、継続して各ブロック代表支部等と連絡調整等を行った。

4月15日0:20、災害救護速報（第1報）を発出し、対応状況を共有、報告（以後、続報を適宜発出）。2:30、第6ブロック内で支援の救援物資を輸送するため、災害時の物資輸送協定業者の連絡先確認の依頼があり伝達した。

6:30、先遣要員等を熊本県支部に派遣（熊本県支部にて状況把握・協議等を行い、その後、ブロック代表支部の福岡県支部に向かう）。引き続き被害や対応状況の確認、調整、取りまとめ等を行った。

18:20、福岡県支部と調整し、被害拡大がない限りは第6ブロックと本社において対応することとし、各ブロック代表支部及び関係部署と状況を共有した。

また、熊本県支部災対本部やボランティア活動の支援のため、翌日支援要員3名を派遣することを決定。引き続き、2交代の当直体制により対応にあたることとした。

先遣隊と医療救護班の派遣による初動救護

前震直後、熊本赤十字病院DMAT隊と先遣隊を益城町に派遣

4月14日（前震直後）　23:06　熊本赤十字病院DMAT隊出動
23:26　先遣隊（医師2・看護師2・主事2）出動

ディザスターレスキュー車出動、臨時救護所設営

4月15日　0:20　救護班（医師1・看護師3・薬剤師1・主事4）
ディザスターレスキュー車出動　益城町役場へ

前震発生後、多くの外傷患者が当院に搬入された。その最中、熊本県から熊本赤十字病院へ「益城町へDMATを派遣してほしい」と要請が入った。病院災害対策本部は即座にDMAT派遣を決定した。災害時の初動においては、情報収集・医療救護活動・避難所コントロールに精通した要員派遣が必要との判断で、統括DMAT隊員・DMAT隊員・外傷外科医・救急医を中心にメンバー選定が行われた。外傷外科部長（統括DMAT）をチームリーダーとして、外傷外科部医師、救急科部医師、救命救急センター看護師3名、主事2名の合計8名の派遣が決定。23:06に益城町役場に向け出発した。

事前情報は皆無に等しく、移動の車内でチームビルディングを実施。現場指揮本部にはリーダー医師が入り、他の医師・看護師はペアで現場状況を把握することとした。「とにかく無理はせず、とにかく怪我なく生きて帰ろう」が合言葉だった。

益城町へ向かう熊本赤十字病院DMAT隊

益城町総合体育館にて展開する特殊車両

23:20に益城町役場に到着。予定どおりリーダー医師が現場指揮本部に入った。消防を中心とした現場指揮本部は、建物外に設置してあり、かなりの混乱状態で、夜間の屋外活動となったことから情報収集にかなり苦労した。また、マスコミが多数押し寄せ、本部内に入りこんでおり、これを規制する余裕もないという印象であった。一方、益城町役場駐車場には数百人の避難者が押し寄せていた。救急科医師をコマンダーとして看護師と共にトリアージを実施した。

その後、24:00ごろに指揮所から家屋倒壊現場への投入の依頼があり対応。3現場4名（赤タグ2名、黒タグ2名）に対し、ルート確保等の処置を行った。

夜明けと共に、益城町役場のライフラインが復旧（水以外）したため、現場指揮本部が建物内へ移設された。この時点で現場DMAT本部の立ち上げを行った。

DMAT隊に続き、23:26に日赤医療救護班の先遣隊として、医師2名・看護師2名・主事2名を派遣。15日0:20日赤熊本医療救護班（医師1名・看護師3名・薬剤師1名・主事4名）をディザスターレスキュー車両にて益城町へ派遣し、DMAT隊と協働し、救護活動にあたった。

DMAT隊は、その後、後着のDMAT隊員に引継ぎを行い、初動DMATチームとしての活動を終えた。

益城町へ向け出動するディザスターレスキュー車

【課題】

●派遣決定

震源地から直近の災害拠点病院・救命救急センターであったため、多数の傷病者受入で混乱していたフェーズでの院外への派遣の是非について、診療統括班と調整し、派遣を決定するプロセスが必要であった。

●派遣要員決定

院内対応の主要メンバーを院外へ派遣することの混乱やDMAT調整員を同行させなかったことによる本部資機材・通信資機材の不足、個人防護具の不徹底、EMIS入力もれが発生した。今後は、DMAT調整員を中心としたブリーフィングを実施し、事前情報の確認・資機材チェックを徹底する。

益城町総合体育館正面玄関前屋外救護所

益城町総合体育館屋内救護所の受付

担架で患者搬送する救護班（益城町総合体育館）

処置後救急車を待つ患者（益城町総合体育館）

前震直後の救援物資の輸送

益城町総合体育館へ職員による輸送

熊本県支部職員12名と熊本赤十字病院からの派遣職員4名により動き出した発災直後の支部災害対策本部は、医療救護対応と併せて救援物資の輸送も始めることとなった。最大震度7を記録し最も被害の大きかった益城町では、役場が半壊したため益城町総合体育館に多くの被災者が避難していた。15日0:55益城町からの要請を受け、毛布600枚を積み込み熊本県支部職員が現地へ出発。被災した夜間の道を走行し2:15に益城町へ搬入した。第6ブロックからの支援要員が到着する前の限られた人数での物資輸送であり、災害直後の人的不足を実感するものであった。

益城町総合体育館へ救援物資を積んで出発する職員

益城町総合体育館避難所へ救援物資をおろす職員

被災者へ救援物資を配布する避難所スタッフ

第 6 ブロックの協力

熊本市内の各避難所へ、アセスメントに向かう第6ブロックの救護班

避難所のアセスメントに向かう救護班

被災現場へ必要な医療と物資を速やかに届けるため、第6ブロックから駆けつけた救護班は避難所を回って的確な状況把握に努めた。15日1:52先着した福岡県支部救護班は、熊本市中心部の避難所となっている白川公園、一新小学校、五福小学校の巡回へ出発。3:02に到着した白川公園避難所では、医療ニーズはなく毛布が不足していることが判明。300人ほどの避難者がいた一新小学校では、ガラスで手を切った被災者がおり救護班が処置。5:33に五福小学校での巡回を終えアセスメントを終了した。なお、15日0:00に福岡県支部から第6ブロック救護班に対し、出動の指示がなされた。佐賀県支部は4:35に到着、7:30から花園小学校へ、長崎県支部（長崎原爆病院・長崎原爆諫早病院）は4:55に到着、6:50から長崎原爆病院は龍田西小学校、陣内公民館へ、長崎原爆諫早病院は城山小学校へ、大分県支部は6:10に到着、春日小学校へ各々アセスメントに向かった。

避難所の状況を細かくアセスメントする第6ブロックの救護班

4月15日5時　熊本市 五福小学校

救援物資の搬送

家屋が倒壊し、道を塞ぐ形となっている益城町の県道を縫うように進む

発災から一夜明けると、救護班に続いて救援物資も第6ブロックの各県支部から続々と届き始めた。5:00福岡から毛布2,400枚とブルーシート200枚が届いたのを皮切りに、6:55鹿児島から毛布1,000枚、7:12大分から毛布500枚と緊急セット504個、8:10宮崎から毛布1,000枚が到着。その後、御船町からのブルーシートの要請や合志市からの毛布やタオルケットの要請があり対応した。

熊本県・熊本市・熊本市消防局への情報連絡員（リエゾン）の派遣による情報収集

日赤では、日頃から災害発生時には主要な行政･消防と情報を共有する協定を結んでいる。14日の前震発災後も速やかに被災現場の状況を把握するため、日赤熊本県支部災害対策本部は直ちに県･市･消防との連携に着手した。22:30に熊本県知事公室危機管理防災課へ、22:33に熊本市危機管理防災総室へ、23:09には熊本市消防局指令室へ各2名のリエゾンを派遣。各機関に入る情報をリエゾンが災害対策本部である熊本県支部へと報告し、その情報をもとに出動態勢を組んでいった。

しかし、発災直後の情報は錯綜しており、次々に飛び込んでくる情報から正確な被害状況を把握することは容易ではない。今回益城町の被害が最も甚大という状況も各機関に入る情報から時間経過と共に総合的に判明していった。実際、発災直後には日赤熊本県支部災害対策本部にも「家族が下敷きになっている」「電話がつながらない」といった益城町被災者からの電話が入っている。

15日になると、熊本市危機管理防災総室や消防局での情報収集が困難であったため、17:18に熊本市危機管理防災総室と熊本市消防局指令室のリエゾンは撤退。自衛隊、消防、警察など他機関とも情報共有ができ、県下全域の情報が集約される熊本県災害対策本部で災害医療コーディネーター及びリエゾンが活動する体制とした。

■リエゾン派遣職員

	日　　程	時間	氏　　名	所　　属	場　　所
1	4月14日(木)	夜勤	稲葉　修一郎	熊本県支部	熊本県庁
2			松本　大平	熊本赤十字病院	
3			寺本　伊織	熊本赤十字病院	熊本市消防局
4			村中　太一	熊本県支部	
5			蔵原　健之	熊本健康管理センター	熊本市役所
6			岡田　隼也	熊本赤十字病院	
7	4月15日(金)	日勤	永田　知己	熊本県赤十字血液センター	熊本県庁
8			荒牧　巌	熊本赤十字病院	
9			坂本　諒	熊本県赤十字血液センター	熊本市消防局
10			諏訪　日光	熊本赤十字病院	
11			梅木　一成	熊本県赤十字血液センター	熊本市役所
12			徳山　拓哉	熊本赤十字病院	
13		夜勤	石原　正朗	熊本県赤十字血液センター	熊本県庁
14			樫本　泰志	熊本健康管理センター	
15	4月16日(土)	日勤	永田　知己	熊本県赤十字血液センター	熊本県庁
16		夜勤	稲葉　修一郎	熊本県支部	熊本県庁
17			比嘉　良民	沖縄県支部	
18	4月17日(日)	日勤	河野　寛也	熊本健康管理センター	熊本県庁
19			飯田　晋平	福岡県支部	
20		夜勤	森永　太一郎	熊本県赤十字血液センター	
21	4月18日(月)	日勤	寺尾　優作	熊本健康管理センター	熊本県庁
22		夜勤	仁田尾　正高	熊本県赤十字血液センター	
23	4月19日(火)	日勤	上村　佳也	熊本健康管理センター	熊本県庁
24	4月20日(水)	日勤	寺本　文宏	熊本県赤十字血液センター	熊本県庁
25	4月21日(木)	日勤	西田　和隆	熊本健康管理センター	熊本県庁
26	4月22日(金)	日勤	奥村　彰太	熊本健康管理センター	熊本県庁
27	4月23日(土)	日勤	浦田　寛行	熊本健康管理センター	熊本県庁
28	4月24日(日)	日勤	鍋嶋　駿	熊本健康管理センター	熊本県庁
29	4月25日(月)	日勤	盛島　由貴	熊本健康管理センター	熊本県庁
30	4月26日(火)	日勤	迫　宜之	熊本健康管理センター	熊本県庁
31	4月27日(水)	日勤	一瀬　悦史	本社	熊本県庁
32	4月28日(木)	日勤	久保　芳宏	福島県支部	熊本県庁
33	4月29日(金)	日勤	久保　芳宏	福島県支部	熊本県庁
34	4月30日(土)	日勤	久保　芳宏	福島県支部	熊本県庁
35	5月1日(日)	日勤	久保　芳宏	福島県支部	熊本県庁
36	5月2日(月)	日勤	久保　芳宏	福島県支部	熊本県庁
37			新田　光	宮城県支部	熊本県庁
38	5月3日(火)	日勤	新田　光	宮城県支部	熊本県庁
39	5月4日(水)	日勤	新田　光	宮城県支部	熊本県庁
40	5月5日(木)	日勤	新田　光	宮城県支部	熊本県庁
41	5月6日(金)	日勤	新田　光	宮城県支部	熊本県庁
42	5月7日(土)	日勤	新田　光	宮城県支部	熊本県庁
43	5月8日(日)	日勤	新田　光	宮城県支部	熊本県庁
44	5月9日(月)	日勤	新田　光	宮城県支部	熊本県庁
45	5月10日(火)	日勤	新田　光	宮城県支部	熊本県庁
46			上門　充	本社	熊本県庁
47	5月11日(水)	日勤	上門　充	本社	熊本県庁
48	5月12日(木)	日勤	上門　充	本社	熊本県庁
49	5月13日(金)	日勤	上門　充	本社	熊本県庁
50	5月14日(土)	日勤	上門　充	本社	熊本県庁
51	5月15日(日)	日勤	上門　充	本社	熊本県庁
52			藤巻　三洋	本社	熊本県庁
53	5月16日(月)	日勤	上門　充	本社	熊本県庁
54			藤巻　三洋	本社	熊本県庁
55	5月17日(火)	日勤	藤巻　三洋	本社	熊本県庁
56	5月18日(水)	日勤	藤巻　三洋	本社	熊本県庁
57	5月19日(木)	日勤	藤巻　三洋	本社	熊本県庁
58	5月20日(金)	日勤	藤巻　三洋	本社	熊本県庁
59	5月21日(土)	日勤	藤巻　三洋	本社	熊本県庁
60	5月22日(日)	日勤	藤巻　三洋	本社	熊本県庁
61			村中　太一	熊本県支部	熊本県庁
62	5月23日(月)	日勤	藤巻　三洋	本社	熊本県庁
63			下田　広祐	熊本赤十字病院	熊本県庁
64	5月24日(火)	日勤	稲葉　修一郎	熊本県支部	熊本県庁
65	5月25日(水)	日勤	坂本　清美	熊本県支部	熊本県庁
66	5月26日(木)	日勤	荘田　卓哉	熊本県支部	熊本県庁
67	5月27日(金)	日勤	稲葉　修一郎	熊本県支部	熊本県庁
68	5月28日(土)	日勤	工藤　恭子	熊本県支部	熊本県庁
69	5月29日(日)	日勤	菊川　英津子	熊本県支部	熊本県庁
70	5月30日(月)	日勤	富永　智子	熊本県支部	熊本県庁
71	5月31日(火)	日勤	田中　嘉一	熊本県支部	熊本県庁
72	6月1日(水)	日勤	村中　太一	熊本県支部	熊本県庁
73	6月2日(木)	日勤	稲葉　修一郎	熊本県支部	熊本県庁